

「生成A I との上手な付き合い方」

1 題材 生成A I を上手に使うには？ (3)ア 一人一人のキャリア形成と自己実現

2 題材について

(1) 子どもの実態

事前アンケートから、大多数の子どもたちがオンラインサービスを活用しており、ルールやマナーを遵守しながら活用する意識をもつことができていることが分かっている。その中で、子どもたちが意識している留意すべき事項については、「誹謗中傷・いじめについて」「悪意をもつ利用者の存在について」「課金による問題点」などが主であった。

授業実践1で取り扱ったA Iや生成A Iの活用に関する事前アンケートからは、「普段の生活の中でA Iを使っていますか？」という質問に対し、「あまり使っていない・使っていない」が52.4%と、約半数の子どもたちにおいて活用に消極的な様子が見られた。また、活用したことのあるA IはGoogle A Iが29.2%で最も多い結果となった。Geminiなどの生成A Iは4.2%と、全体としては活用の実態がほぼないことが分かった。

これまでの学習の中で、情報の取扱い方については適宜学習を進めてきた。国語科「町自慢を紹介しよう」では、地元幕別町の魅力を伝えるポスターを作成した。その際、記事に引用する情報の整合性をとることや、情報の出典を明確に記載し作成することを学習している。総合的な学習の時間において、高知県中土佐町立久礼小学校第5学年の子どもたちと交流学习をした際にも、これらの学習した内容を生かして幕別町のPR活動を行った。

(2) 題材設定の理由

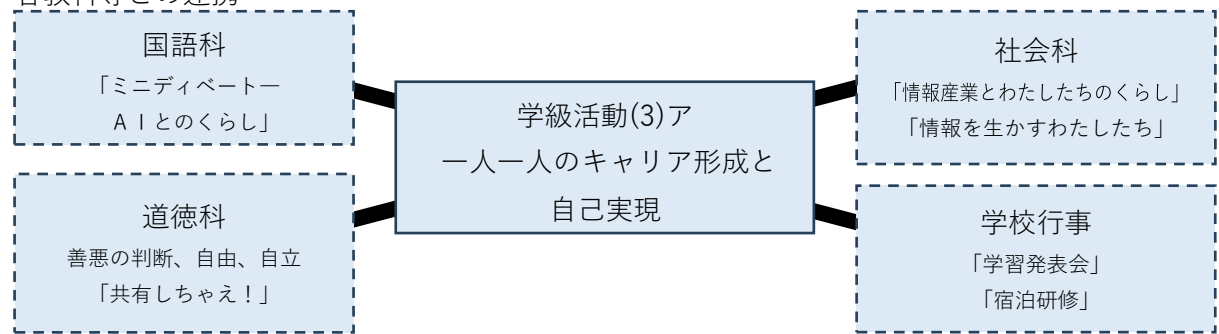
近年のA I事業の拡大における影響への対応は、世界的にも喫緊の課題とされており、特に生成A Iは21世紀の産業革命とも言われるほどの大きな影響力をもっている。しかし、小学生の生活の中で生成A Iを活用する場面は、年齢制限なども相まってさほど多くないのが現状である。一方で、Google A Iのように知らず知らずのうちに活用していたり、GeminiやCanva A Iなど子どもたちも利用できる生成A Iが既に身近なものとして存在しているのも事実である。実際に、これまでの学習の中で、Google A Iを活用して必要な情報を検索して活用している実態がある。

しかしながら、検索結果としてページの上部に表示されるGoogle A Iの検索結果を、「インターネット上の関連記事の中から、A Iが収集して表示している」と捉えて検索している子どもたちは少なく、無自覚に生成A Iを活用している様子も見られる。

生成A Iを活用する経験が乏しいため、これまでに学習した「情報元を明らかにする」ことは意識できていても、その情報の正確性については意識できていないのが実情である。事前アンケートからも、「検索して得られた情報が本当に正しいかどうかよく考えている」は66.7%、「情報が本当に正しいか確かめる方法を知っている」は47.6%となっている。

そこで、本時の学習では、子どもたちに「A Iの特性を考慮し、A Iの提示する情報の真偽を考える」視点を醸成することをねらいとする。

(3) 各教科等との連携



3 評価規準

観 点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通した思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評 価 基 準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

4 事前の指導

子どもたちの活動	指導上の留意点	目指す子どもたちの姿と評価方法
アンケートに記入する。	自身の生活を適切に振り返るよう知らせる。	アンケートを記入し、A I の活用について考えることができる。 【思考・判断・表現】 (アンケートへの回答)
アンケートの結果をまとめる。	アンケートの結果をまとめ、学級の実態をつかむ。	
国語科「ミニディベーター A I とのくらし」 (授業実践 1 参照)	A I を活用する際のメリットやデメリットについて理解する。	

5 研究内容との関わり

(1) 研究内容 1

- ・ 事前アンケートから子どもの実態を把握した上で、題材の設定をしている。事前の指導では、国語科と連携し、A I を活用することで生まれるメリットやデメリットについて考えている。
- ・ 子どもが自分事として捉えやすいよう、模擬的な活動を取り入れ、実感を伴う学習を設定している。
- ・ A I と生成 A I との違いについて、その使用目的や使用用途、形態の違いなどについて大まかに理解できるよう、ディベートで取り扱うテーマを通して学習している。

(2) 研究内容 2

- ・ 生成 A I が提示する情報にどのような問題や危険性があるか考える場を設定する。

- ・事実と異なる情報や、感情や状況把握の欠如した情報であるかなど、参考する上で適切な情報かどうかを判断する方法を考える場を設定する。
- ・今後、A I（生成A Iを含め）をどのように活用していくか考え、記述する場面を設定する。

6 本時の展開

(1) 本時のねらい（目指す子どもの姿）

- ・生成A Iを活用する際に、留意しなければならない点があることを理解する。
- ・生成A Iから得た情報の真偽を確かめながら、生成A Iを活用する視点をもつことができるようになる。

(2) 学習過程

指導過程	<p>○ 主な発問や教師の指示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想される子どもの反応 	指導上の留意点（□）評価（☆） 研究との関わり
導入 つかむ	<p>○ 調べたい事があるとき、何を普段使いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットで調べる ・ 本や新聞で調べる ・ Google で検索して出てきた情報を上から見る <p>○ 今までに、こんな誤情報が出たことがあるんだよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年は 2025 年じゃん！間違ってるよ！ ・ うーたんを薬剤で安楽死って…そんな訳ない！ ・ 枕が部屋にあるのは当たり前だよ ・ ウサインボルト遅くない？ <p>○ A Iには人間の現状や人間同士の繊細な感情のやりとりは分からないし、間違った情報を表示することもあるんだよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直接、大きい声で言ったら、失礼でしょ！ ・ 相手のことも考えないと ・ 困っちゃうよね <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A Iを上手に使うには、どうすればいいのだろう？</p> </div>	<p>□事前アンケートの結果を基に確認する。</p> <p>□Google で検索した際に、ページ上部に表示される内容は GoogleAI overview という生成A Iが作成したものであることをおさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>情報技術の仕組みの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット上に存在する誤情報を使用する可能性がある。 ・ 生成A Iのウソ（ハルシネーション）が生じる場合がある。 ・ 生成A Iは自分で情報を理解したり真偽を判断したりする能力はない。 </div>
展開 さぐる	<p>A Iの性質から、生成A Iが提示する情報の問題点や危険性について捉える。</p> <p>○ 実際に使って、アドバイスをもらってみよう。うまくいかなかった経験ってある？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄棒が… ・ すぐころんじゃうんです… <p>○ では、「○○上手く いかなかった どうすればいい？」と Google で検索し、GoogleAI overview のアドバイスを確かめてみよう</p> <p>→当てはまる（過去の状況とアドバイス内容が一致）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄棒がうまくいかない人へのアドバイスとしてあっているよ 	

	<p>→当てはまらない（過去の状況とアドバイス内容が不一致）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの視点で聞いているのに、先生の立場からのアドバイスになっているよ <p>○ AI overview のアドバイスには、どんな問題点があるのか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと詳しく書かないとだめなんだ ・一般的なアドバイスだから、必ずしも自分に合うアドバイスがもらえるとは限らない。 ・何を基にアドバイスしているのかわからないときもあったよ <p>生成AIの特性を考慮して実際に必要な情報を集める方法を考える。</p> <p>○ 実際に検索して、必要な情報を集めてみよう。</p> <p>【桃太郎のお供は何？】</p> <p>→ AI：犬、猿、雉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方ではそれ以外のお供もある <p>【オリンピックで一番はやく100mを走った日本人は誰？】</p> <p>→ AI：吉岡隆徳さん 10秒3（時期が早い） 山縣亮太さん 9秒95（スピードが速い）</p>	<p><input type="checkbox"/> グループで理由について考える。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要に応じてタブレットで情報を収集しながら考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>行動の選択肢の議論</p> <p>実際の場面を想像しながら、その状況に合った行動について考えている。</p> </div> <p><input type="checkbox"/> グループで、どちらか1つを選択し、検索を試みる。</p> <p>【桃太郎】</p> <p>→ 地域性による違い</p> <p>【はやく走った日本人】</p> <p>→ 一番早く・一番速くの解釈の違い、女性が含まれていない</p>
終末 決める	<p>今後の自身の行動について考え、決定する。</p> <p>○ 今後インターネットで情報を検索する際に気をつけることはどんなことですか？また、今後生成AIを上手に使うために大事なことは、どのようなことだと思いましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生成AIの情報が正しいと思い込まずに、本当に正しいのか確認をする ・生成AIには伝わらないことがあることを意識して活用したい 	<p><input type="checkbox"/> これまでに例示した資料をもとにグループで理由について考える。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要に応じてタブレットで情報を収集しながら考える。</p> <p>☆学習内容を振り返り、伝え方を前向きに考えていたか。【記述】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>前向きな対処法の追求</p> <p>今後の自己の前向きな行動について意思決定している。</p> </div>

6 事後の活動

子どもたちの活動	指導上の留意点	目指す子どもたちの姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none">・自分で立てためあてや取組について振り返る。・日常の中でも意識をする。	<ul style="list-style-type: none">・インターネットで検索した情報の真偽について考えるよう意識させる。・生成AIの特性をおさえた上で、情報を活用するように意識させる。	<ul style="list-style-type: none">・友達の意見を参考にしながら、どのように生活に生かしていきたいかを考えて立てた具体的な目当てや実践方法に進んで取り組んでいる。【知識・技能】（観察）・学習発表会に関わる学習へ生かしている。（観察）